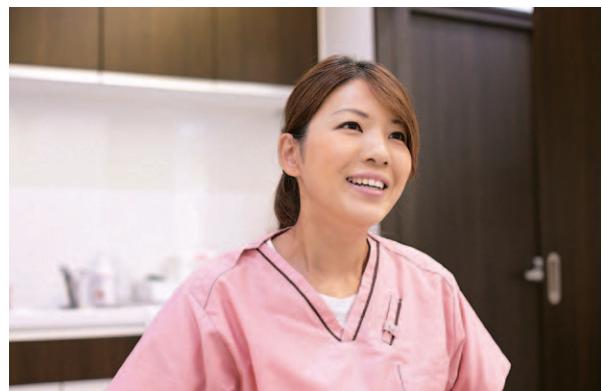


OBOG の キャリアデザイン



歯科医師

長井朋佳さん

愛知淑徳高等学校第52回卒業(平成11年度卒業)。旧姓:宮田。

公立中学校から愛知淑徳高校に入学。3年間、ソフトテニス部に所属し、勉強と両立させながら日々の練習に打ち込む。朝日大学歯学部に進学し、アメリカへの交換留学など、歯科医師をめざして専門的な学修や経験を重ねる。卒業後、愛知学院大学歯学部附属病院、名古屋市内の歯科医院で歯科医師としてのキャリアを積み、2012年、大学時代の同輩で歯科医師の夫と共に「庄内通歯科クリニック」を開院。

のが、母です。愛知淑徳中学校・高等学校の卒業生。しかもソフトテニス部で活躍していた母だからこそ私の気持ちを理解し、自分自身の力で困難に立ち向かうことができるよう優しく見守ってくれました。そうしたまさのあたたかさは、愛知淑徳の先生方も同じ。授業・学校行事、部活などあらゆる場面で生徒の主体性を尊重し、一人ひとりが自ら成長するチャンスを数多く与えてくださいました。こうした恵まれた環境のおかげで、自分の持てる力をすべて出し切って勉強と部活を両立し、志望していた大学への進学も果たすことができたと感謝しています。

◆仲間たちからパワーをもらい、歯科医師として母として全力の日々

愛知淑徳で培つたガッツが、歯科医師として向上し続ける私の力になっています。

◆ソフトテニスに熱中し、忍耐力を鍛えた3年間

365日、朝から晩まで、ソフトテニス部の活動に打ち込んだ——そんな熱い日々の積み重ねが、愛知淑徳高等学校での私の3年間でした。全国大会にも出場するほどレベルが高い分、練習量が多く、上下関係など規律も厳しかった、わがソフトテニス部。掛けそぞりながらも、仲間と一緒に励まし合い、辛さも乗り越える中で、心身ともに鍛えられました。特に、「最後まであきらめない」負けたくない!」と、自分の可能性を信じて頑張り抜く忍耐力が培われたと思っています。

また、当時の私にとって、大きな支えだった



修学旅行中も毎朝、ソフトテニス部の仲間と自主練習を欠かさなかったという長井さん(右から二番目)。「楽しむときは仲間と思いきりはしゃぐ。頑張りどころでは集中する。メリハリある学校生活を心がけました。だからこそ、濃密な3年間になつたのだと思います」

手に職をつけて働きたい——つい思いから医療の道を志し、朝日大学歯学部に進学しました。歯科医師となつた今も大きな力になつているのは、学生時代・研修医時代に出会つた仲間たちの存在です。在学中、時に良きライバルとして互いに学び合い、切磋琢磨して、「歯科医師になる!」というモチベーションや医療人としての意識を高めていきました。さらに、印象深い出会いにあふれていたのが、アメリカでの海外研修です。世界レベルの歯学教育・臨床教育を体感しながら、歯科医師をめざす現地の学生たちと交友を深め、向学心が刺激されるとともに視野も大きく広がつていきました。

そして歯科医師となつて4年目のときに結婚し、2児の母となつた現在も最前線で働き続けています。仕事にも子育ても全力で取り組めるのは、同じように歯科医師として母としても頑張る仲間たちがいるから。アメリカの友人たちともSNSを使って相談し

合っています。また、底力になっているのが、愛知淑徳で培つた忍耐力。勉強と部活をやり抜いたガッツが、私の向上心の源です。



庄内通歯科クリニックにて。「めざしているのは、喫茶店のように身近でアットホームな歯科クリニックです」と笑顔で語った長井さん。

◆地域に密着した歯科クリニックをめざして

今後の目標は、夫と共に2012年に開業した「庄内通歯科クリニック」を、地域に根ざしたアットホームなクリニックにしていくことです。また、中学高校の生徒健康診断の中の歯科検診については、近年、歯科医師として働いている愛知淑徳の卒業生8人で取り組んでいますが、今後も継続していくたいと考えています。

やりたいこと、チャレンジしたい気持ちがどんどんあふれてくるのは、愛知淑徳に在校していたときから。今、学業や部活などに励んでいる学生・生徒の皆さんも、ぜひ、何事にも一生懸命に打ち込んでください。無駄なことはなにひとつありません。ひとつひとつ挑戦、経験が、将来きっと、大きな花を咲かせるはずですよ。